

〈公民〉

人間としての在り方生き方を考えさせる指導の工夫 — 参加型学習プログラムを取り入れた言語活動を通して —

沖縄県立西原高等学校教諭 町 田 宗 毅

I テーマ設定の理由

平成21年12月改訂された「高等学校学習指導要領解説公民編」（以下、「解説公民編」と記す）において、公民科「倫理」の目標の中で「青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。」と示されている。公民科の特色として、「倫理」と「現代社会」は人間としての在り方生き方に関する教育の中心的な指導の場面である。また、平成22年3月に沖縄県が発表した沖縄21世紀ビジョンの5つの将来像実現にむけた「課題」と「戦略」のひとつに沖縄県の将来像の一つとして「多様な能力を発揮し、未来を拓く島」が挙げられた。そのための具体的な方策として「人間形成を重視する教育」などがある。

平成15年4月に内閣府の「人間力戦略研究会報告書」においては「生きる力」の理念をさらに発展させ、具体化した「人間力」についても述べられている。「人間力」とは「社会を構成し運営するとともに自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」ということである。現実の社会の中で大人がどのように行動し、そこでは何が必要とされるのかを実際に見せることによって、学ぶことの意義を子供たちに伝えられるような教育環境をつくっていくことが必要であると考ええる。

本校は、マーチングバンド部の世界大会金賞をはじめ、男・女バレーボール部が全国大会に出場するなど、実績も輝かしい部活動の盛んな学校である。平成26年度の高校入試志願者は、6年ぶりに定員を超える志願者数となった。部活動の活性化はもちろんのこと、日々の授業の大切さを再確認し、授業展開の工夫をし、学校生活を充実させることで「文武両道」に更なる磨きがかかる。これからも魅力ある学校作りの継続、発展させていくことが大切である。そのためには、毎時間の授業の充実を図りたい。授業の充実を図ることで、全生徒が、授業に参加し、興味関心を持ち、授業が楽しくなり、本校で学びたいという生徒も更に増加するだろう。

これまでの実践を振り返ると、生徒に深く考えさせたり、論述や討論などの言語活動の取組が十分ではなかった。「解説公民編」の公民科「倫理」の分野の中で、「課題を探究する学習を一層重視し論述や討論などの言語活動を充実させ、社会の一員として自己の生き方を探究できるようにした。」とある。授業の中で、ブレインストーミング、シミュレーション、ロールプレイ、ランキング、ウェビング、ディベートなどの参加型学習プログラムを段階的、計画的に取り入れ、人間としての在り方生き方を考える指導の工夫をし、積極的な論述や討論を教師が積極的に促すことによって（ファシリテーター的役割）、生徒自身が自分の意見を持って話せる態度が育ち、自信を持ち、もっとわかりたい、学びたいという態度につながると考える。

現在、少子高齢化、高度情報化、グローバル化の進展や環境問題の変化など、生徒を取り巻く環境の変化から、「生きる力」がますます重要になってきている。また、人間関係形成能力、将来設計能力、意思決定能力が強く求められている。そのような中、これから自分が生きていくための柱を考えて、自分の支えとして常にその柱があれば、激変の現代社会を生きぬく自信につながるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

「青年期の課題と自己形成」「人間としての自覚」の単元において参加型学習プログラムを取り入れることで、言語活動の充実が図られ、生徒が自分と他者の関係をより深く学ぶこととなり、人間としての在り方生き方を考えることができるであろう。

II 研究内容

1 人間としての在り方生き方

(1) 人間としての在り方生き方とは

金井肇（1990）は、「教育の場においては、在り方生き方は、概念から始まるのではなく、実態をもとにいろいろな角度から考えさせ、理解を深めることが重要である」と述べている。

公民科、倫理における「人間の在り方生き方」の位置づけは次の通りである（解説公民編）
倫理の目標「人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。」と示されている。

倫理の内容「生涯において青年期が持つ意義を理解させるとともに、先哲の基本的な考え方を手がかりとして、人間の存在や価値について思索を深めさせる。」「人間性の特質、適応と個性の形成など生涯において青年期が持つ意義を理解させ、現代社会に生きる青年の生き方について考えさせる」「自己探究と倫理的自覚、人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の在り方生き方を考えさせる」と示されている。

また、公民の目標に「人間尊重の精神、青年期における自己形成、人間としての在り方生き方について理解と思索、現代社会に関する理解と認識、判断力の基礎」と示されている。

(2) 「在り方生き方」と「在り方」「生き方」について

「人間としての在り方生き方について」という表現は高等学校の学習指導要領で記述されている。中学校では、「人間としての生き方について自覚を深める」とあり、小学校、幼稚園には直接的な表現はない。金井は、「人間としての『在り方』は、人間が自然や社会、あるいは世界にどのようなにかかわり、どのような位置づけにあるかを問うときに用いられた語である。」と述べた。自分が世界のなかでどのような姿勢をとるかということは、自らが世界の中でどのような位置づけで存在しているかという自覚と関連する。

これとあわせ、道徳の根幹として人間の「生き方」がある。金井は、「自らの人生を有意義なものにしたいと誰もが願い、誰もが生きがいを求め、幸福を求め、よりよい人生を求めている。自らの人生をどのようにして生きがいのある有意義なもの、価値あるものとするかということは、自らが生きるということの根本にある問題であって、日常の生活、行動の在り方もこれとかかわって定まってくる。」と述べた。

上記のことから、本研究では、人間としての在り方生き方について、生徒の思いや、考えを深めさせ、体験させることで記憶に残り実践すれば理解すると考える観点から参加型学習を取り入れた授業展開を行い、「人間の在り方生き方」について、概念の指導だけではなく、具現化した指導を行っていく（図1）。

従前から、青年期の発達課題として「人間観」「世界観」の確立に資する教育が重視されてきた。「人間観」とは、人間は、どういう存在かを主観的な価値観に基づき定義することであり、「世界観」とは、世界を全体として意味づける見方である。また生徒目線で考えると、人間観は将来のなりたい自分、大人の自分。世界観は自分の考える世界のイメージとして考えさせると思考しやすい。現在、より一層、本来の意味で、一人一人に「人間観」「世界観」の確立を援助し、指導する教育が求められているということが考えられる。

本研究ではこのような事項に留意しながら取り組んでいきたい。

2 参加型学習プログラムと言語活動

(1) 参加型学習プログラムについて

小貫仁（2003）は参加型学習を「学習者が、単に受け手や聞き手としてではなく、その学習過程に自主的に協力的に参加することを目指す学習方法」と述べている。それをプログラム（計画）として、ブレインストーミング、シミュレーション、ロールプレイ、ランキング、ウェビング、

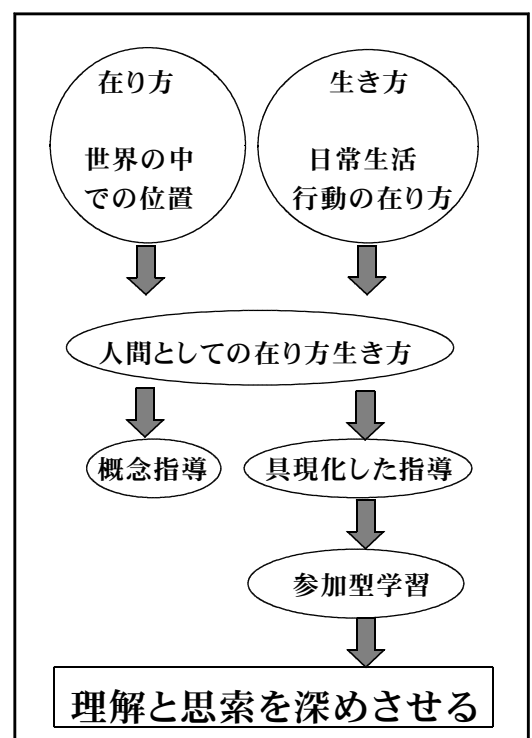


図1 在り方生き方の関係

ディベートなどの手法を用いて取り組む（表1）。これらの参加型学習プログラムを取り入れた学習方法は、教師と学習者が対話することにより、学習者の緊張を解き、その場の雰囲気や和ませる中で、学習者が持っている知識や経験、個性や能力を引き出し、相互の意見交流や、相互理解を促進すること、そしてその過程で学習者が新しい発見をしていく効果がある。「人間の在り方生き方」について具現化した指導をするために参加型学習プログラムの活用を重視したい。さらに、これから変化が著しい現代社会を生き抜いていく生徒たちの「人間力」の育成にもつながると考える。

(2) 言語活動について

言語活動の充実に関する指導事例集「言語活動を充実させる指導と事例」の中で「倫理」においては「先哲の考え方・生き方などについて習得した知識、概念や技能などを活用して、現代の倫理的諸課題について自己の課題とつなげて考察し、探究するとともに、自己の確立をうながすように主体的に考え、自分の意見を整理して発表したり、異なった意見を持つ人と議論したりするなどの学習活動を充実する」とある。

石川一喜（2009）は「学習においては、学習を社会参加へつなげていこうとするねらい（目的）をもつ実践であるからこそ、そのすすめ方（方法）を参加型にする必要がある。」と述べている。人間としての在り方生き方の指導は、概念だけの指導ではなく、具現化した指導が大切である。

これまで習得した知識を、考察、探究し、発表、議論を行い、人間としての在り方生き方を考えさせる指導の工夫をするうえで、在り方生き方指導に大切なことは、はじめに、ブレインストーミングの手法を用いる。そして、たくさんの意見を出し合い、現在持つ漠然とした考えを言葉にすることで考えをまとめる。次に、シミュレーションで今後おこりうる事態を体感させる。そして、ロールプレイで、実際に体感、体験させ、より深く学ぶ。また、ランキングを用いて、生徒が生きていくうえで必要な考えや技術などを思索させ、発表させる。最後に、ウェビングを活用して、現時点での自分、グループで考える「人間観」「世界観」を広げて考え深めていく。その考えを発表し、全体で共有する。など授業展開を工夫する。このような受け身ではなく、参加する授業で思索した「人間としての在り方生き方」の考えは、生徒の心に残り、今後の自己の支えとなるであろう。

表1 参加型学習の例（石川による）

①ブレイン ストーミング	参加者全員がたくさんの意見やアイデアを出し合い、そこから「何か」を見つけていくための手法である。他の参加者が何を考えているのか（自分と共通する点・違う点）が見えてくる。思いもかけなかった新しいアイデア（解決策）を見いだす。
②シミュレーション	ある事象を単純化し、疑似体験すること。シミュレーションすることで、自分にみえなかった事象や問題を可視化させ、気づきを得ることを目的としている。その複雑な構造を体感することで理解を促す働きを持っている。
③ロールプレイ	ある役割（role）を演じ（play）、自分と違う立場や境遇にある人になったつもりで、そこにある問題について考えたり、感じたりしてみること。本や資料を読んで得た情報よりも、実感を伴うのでより深い学びができる。
④ランキング	あるテーマに関した選択肢（項目）をある基準（好きなもの順・問題解決順）で並べ替えていく。参加者の人数に関係なくでき、自分の思い・考えや価値観を整理することができる。
⑤ウェビング	あるテーマやアイデアを広げていったり、深めていったりする手法。クモの巣（WEB）のように線をつなぎながら発想を展開していく。発想の履歴をたどることができるし、その連なりを学習プロセスとして捉え、プログラム・カリキュラム開発に転用できる。
⑥ディベート	あるテーマについて2組が、一定のルールに従って討論を行い、主張の理論性、実証性を競うゲーム的な討議法。問題解決のための能力、論理的に議論する能力が身につく、異なる立場に対する共感的理解ができるようになる。

Ⅲ 指導の実際

- 1 単元名「青年期の課題と自己形成」「人間としての自覚」
- 2 単元の目標

- (1) 「生きる意味」を考える必要性を理解させ、自分にとっての「生きる意味」を考えさせる。
- (2) 先哲の考え方など踏まえて、自分が生きていくための柱を考え、発表し、共有しあう。

3 評価規準

a 関心・意欲・態度	b 思考・判断・表現	c 資料活用・技能	d 知識・理解
人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身につけ、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立つて主体的かつ公正に判断するとともに、追求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料をさまざまなメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に視するよう活用する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己の確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身につけている。

4 指導計画

時	学習項目	学習内容	学習指導の手立て 【参加型学習プログラム】『学習形態』	主な評価
1	人間としての自覚 ～思想の源流から学ぶ～	・目標設定 ・先哲の思想によって形成された哲学とその根本にある本質について理解させる。	・倫理とは、人間とは、自分とは…1学期の復習をしながら考えさせる。 【ブレインストーミング】 ・先哲の思想によって形成された哲学を理解し、生徒に教師になってもらい紹介させる。 【シミュレーション】 【ロールプレイ】 ・ワークシート記入	a d a d b d
2	青年期の課題と生き方	・人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせる。	・個人でこれからの社会を生きていく上で必要なものの優先順位を考える。 【ランキング】 ・グループ発表・意見交換・全体で共有させる。 【ランキング】 ・ワークシート記入	a b a b b d
3	青年期の課題と生き方	・人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせる。	・前時、ランキングで上位に位置した必要なものを主題に自分のポリシー(人生の柱)を考え、発表し、全体で共有する。 【ブレインストーミング】 ・色紙へ清書 ・ワークシート記入	b d b d b d
4 本時	現代の倫理的課題として今、自分たちが考える人間の(自身)の在り方生き方について	・「人間観」「世界観」を考えさせる。	・現時点での「人間観」「世界観」を考え、発表し全体で共有する。 【ブレインストーミング】 【ウェビング】 ・ワークシート記入	a b b d

5 本時の指導 (4 / 4)

- (1) 題材名
「人間観・世界観を考える」
- (2) 目標
参加型学習プログラムを用いて、個人、グループで世界観、人間観について理解と思索を深め、発表し、共有し合う。
- (3) 教具等準備物
色紙(前時使用)、ワークシート、プロジェクター、模造紙、B4厚紙

(4) 本時の展開

過程	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 6分	前時のふりかえり。 今日の授業について。	教師自身のポリシー（人生の柱）を紹介、その説明をする。 前時、発表した自分のポリシーの中から、生徒が共感したものが多かったベスト3を紹介する。 テーマ：「人間観」「世界観」を考える。	生徒のポリシー発表の前に、教師のポリシーをユーモアを交えて話すことで、生徒の緊張感を解いていく。 正解、間違えはないことを再確認し、ベスト3入りしなかった生徒にも配慮する。 授業のテーマを唱和させ、本時でおこなう授業の把握をさせる。	【関・意・態】
展開Ⅰ 13分	人間観、世界観の説明をして、例をあげる。 ウェビングの説明をする。	（個人の活動） 人間観、世界観の説明を受け、ワークシートへ記入する。 事前アンケートから引用した生徒が考えた「人間とは」や著名人が考えた「世界観」の紹介を聞く。 想像力の魂 〇〇太郎 弱い、かっこい 〇〇△子 世界平和のためにできることって何ですか？ 家に帰って家族を愛しなさい マザーテレサ 世界とは一冊の本であり、預け出ない生きたページばかり読んでいるのと同じである アウグスティヌス ブレインストーミングを用い例として「人間観」のウェビングを実際に行う。 <u>ブレインストーミング</u>	ICT 機器で生徒の事前アンケートから引用した「人間とは」を生徒が嬉しくなるように名前とともに紹介する。 最初はテンポ良く生徒を指名し、共感して様々な意見が出やすい雰囲気を作る。	【関・意・態】
展開Ⅱ 13分	グループで、人間観・世界観をウェビングする。 グループで考えた人間観・世界観をまとめる。	（グループの活動） グループに分かれ（4、5人）模造紙にウェビングする。 B4 厚紙にまとめる。 <u>ウェビング</u>	正解や不正解は、ないため相手の考えを否定する話し合いにならないように意識させる。 自分の考えを理解し、他の人の考え方の違いに気づかせる。 グループごとに人間観・世界観をどちらか1つウェビングする。 見やすいように清書させる。	【思・判・表】

展開Ⅲ 13分	グループで考えた人間観・世界観を発表する。 他グループの発表を聞く。	(グループの活動) グループ全員が前に出て、模造紙とB4厚紙を見せ、考えた人間観・世界観を発表し、黒板に貼る。	まとめだけでなく、ウェビングの内容の説明もするよう指導する。 発表を行う姿勢や聞く姿勢も留意する。	【思・判・表】
まとめ 5分	多様なものの考え方を知り、共感する。	(個人の活動) 他グループの印象に残った人間観や世界観をワークシートに書く。	他グループの発表を聞いて、自分がどう感じたのか考えさせる。	【思・判・表】

(5) 本時の評価

① 生徒評価の観点

関心・意欲・態度	テーマに対して積極的に取り組み、グループ学習にも意欲的に参加し発言している。
思考・判断・表現	テーマに対して読み取れる概念や意図、法則や解釈を分析し、論理的に説明し、発展することができている。

② 教師の自己評価

目標に準拠した評価	提出した資料をもとに、学習の生徒自身の授業への取り組みと単元の指導目標の達成度を分析し、ランキングやウェビングなど次時の取り組みに活かす。
指導と評価の一体化	生徒の授業への取り組み状況と生徒の自己評価を総合して指導方法を見直す。
指導方法の工夫・改善	客観性があり信頼性の高い評価方法を工夫する。

6 仮説の検証

参加型学習プログラムを取り入れた言語活動を通して、生徒が人間としての在り方生き方について深く考えることができたかについて、アンケートの結果、授業時のワークシート、生徒の行動観察、レポートから分析、考察する。あくまでも教師はファシリテーター役として導き役に徹する。

(1) 参加型学習プログラムを取り入れた効果

ブレインストーミング、シミュレーション、ロールプレイ、ランキング、ウェビングなどの参加型学習プログラムを授業に取り入れて、自分自身、グループで考える「人間観」「世界観」を広げて考え、深めていく。その考えを発表し、全体で共有する。そして、その過程で学習者にどのような効果があったか検証する。その際に教師は、生徒一人一人が、それぞれ異なる経験、知識、意見などを持っていることを尊重し、それらを引き出し、対話を生み出し、相互の学びあいを促進する役割が求められる。

① ブレインストーミングの手法を用いて

教師が中立な立場を守り、生徒の心の動きや状況を見ながら授業展開していくファシリテーターとして授業展開をした。

生徒が、今思っている「自分とは何か」「人間とは何か」を直感や、イメージで意見を出しあっていた。教師が、最初は、生徒をテンポ良く指名していき「弱い」「支え合う」などの返答に共感したり、「誰にも操作できない」「想像力の魂」などの深い意見の返答には褒めたりするなど、生徒の緊張を解き、その場の雰囲気

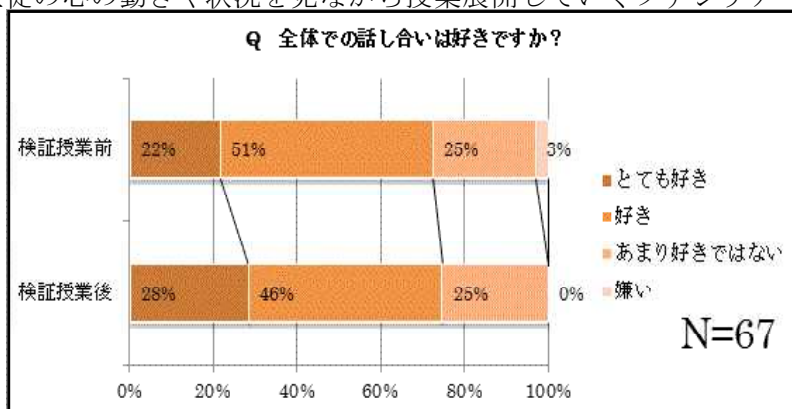


図2 ブレインストーミング活用後の変容

を和ませることにより、自分の意見を話しやすい空間が作れ、生徒一人一人が多様な考えを自ら積極的に述べることができた。結果、自分の意見を全体で述べることに不安を持っていた生徒が、話しやすい空間で自分の意見が素直に話すことができ、その意見を褒められたり、クラスの生徒から共感され、自分の考えを話すことに、自信が持てたことで、検証授業後、全体での話し合いが、「とても好き」になった生徒が22%から28%へ6ポイント増加した（図2）。また、グループでの話し合いでも自分の意見を、グループの生徒から共感されたり、好意的に話し合いが進んだことで、グループでの話し合い活動が「とても好き」「好き」と答えた生徒も73%から79%へ6ポイント増加した（図3）。教師がファシリテーターとしての役割を認識することで、生徒が授業に参加しやすくなり、興味関心や自己評価が高まる効果を示しているといえる。

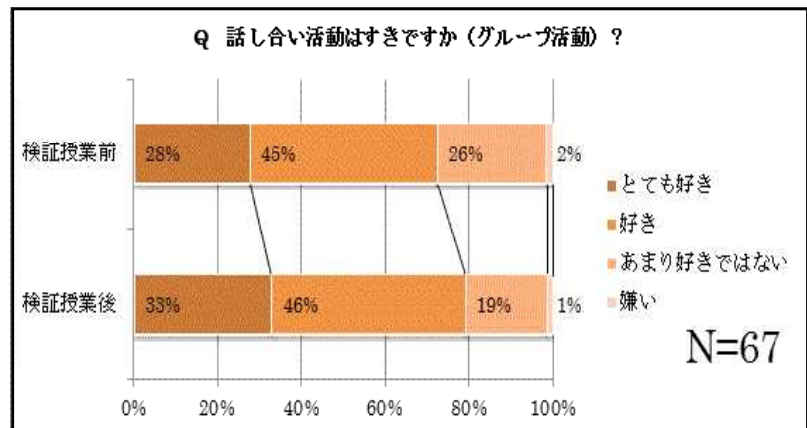


図3 プレインストーミング活用後の変容（グループ活動）

② シミュレーション・ロールプレイの手法を用いて

生徒が人の前に立ち、自分の意見を述べるという社会に出て必要なことをさせた。結果、検証授業後のアンケートにおいて、「みんなの前で話すのは、恥ずかしいけど将来に役立つことを経験できた」と答えた生徒がいた。人前で話すことは難しいとはわかっているが実際に、人前で話す体験をすることで、石川が「学習においては、学習を社会参加へつなげていこうとするねらい(目的)をもつ実践である。」と述べていたように、社会との繋がりを意識した思考が育まれていることがうかがえる。最初の授業で、1学期の復習をして、先哲の思いや考えを思い出し、自分の経験や思いを、生徒が教師役となり、クラスの生徒に話した（写真1）。結果、検証授業後のアンケートにおいて、「人の前で話すのも難しいが、それに何かを教えるのはさらに難しい。立場が変わると、相手の気持ちが良くわかり、授業をすることの苦勞がわかりました。とても勉強になりました」と答えた生徒がいた。自分と違う境遇にある人になったつもりで、そこにある問題について考えたり、感じたりして考えることは、実感を伴うのでより深い学びができる。



写真1 ロールプレイの様子

③ ランキングの手法を用いて

「これから社会に出て生きていく上で必要なものをランキングする」というテーマで生徒にプレインストーミングで述べてここは簡単にまとめる。「健康」「お金」「家族」「友達」「愛」「知識」「人脈」「誠実」「睡眠」「異性」「学歴」などがあがった。その中から、9つに絞りダイヤモンドランキングをおこなった。「正解もないし、間違えもない」と前提のもとなので、自由な発想で、多くの意見が活発にでた。多くの選択肢の中から自分の考えに近いもの、遠いものとしてランク付けすることで、テーマに対する自分の考えを容易に把握することができたのではないかと捉えることができる（写真2）。

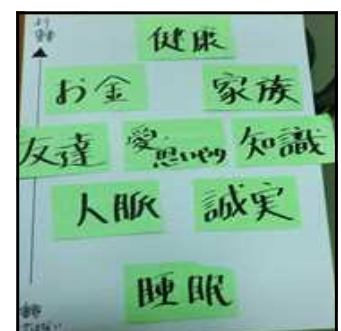


写真2 ダイヤモンドランキング

第3時の授業で、自分のランキングで上位に位置したものが、これからの社会を生きていく上で大切なものとして考え、それと関連する自分のポリシー作りを行った。生徒に考えさせる前に、教師自身や著名人のポリシーをプレゼンテーションソフトを活用して、話すことで、生徒が自分のポリシーを考えやすくなった。グループでも前時のランキングで使ったワークシートの自分のランキングから話し合わせ、自分らしいポリシーを作り、今後残るように書いた。

そして、みんなの前で発表し、そのポリシーを黒板に貼り付けた。クラスの全員が各自ポリシーを考えることができ、共有できた。自分自身のことを深く考える活動を通して、将来を生きていくう

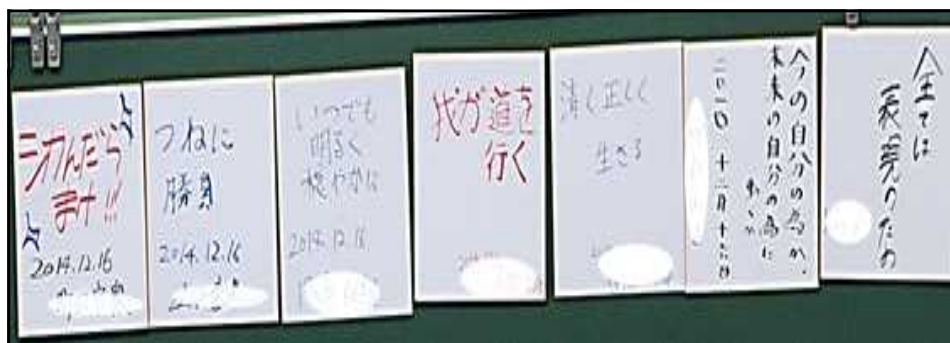


写真3 これからの社会を生きていく上での自分なりのポリシー

えで必要な柱ができ、自分の在り方生き方を考えることができた（写真3）。

④ ウェビングの手法を用いて

第4時は、グループを作り、「人間観」「世界観」をウェビングを活用して考えさせた。普段あまり考えることないテーマであるが、ウェビングを活用することにより、自分と関連づける身近な発想から、社会問題にいたるなど、いろんな発想が生まれた。授業の後半ではグループで「人間とは」「世界とは」というテーマで、自分たちがウェビングした内容から、線でつながれた部分は何かし

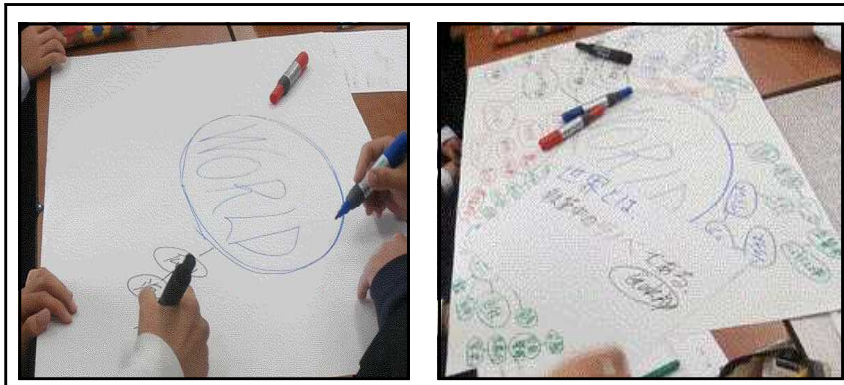


写真4 ウェビングの変容

ら意味を持っていることに注目し、深く考えさせ、関連した内容を端的に文章でまとめて発表した。その発表をクラスで共有することができた。生徒から出てきた自由な発想を一つにまとめて発表するということで、ウェビングの手法をさらに発展させることができた。結果、検証後のアンケートでも「ウェビングをして、一つの言葉から、発想がいろいろ広がっていった、それらが、みんなつながっていることがわかった。」「ウェビングの活用が、一番取り組みやすかった。グループの人たちの発表を聞いて、いろんな考えがふくらんだ」と答えた生徒がいた。生徒にとっても、取り組みやすい手法であり、ウェビングした内容からだ、意見も出やすく、思考も整理でき、視覚化するので発表もしやすかったと考察できる（写真4）。

(2) アンケートからの考察

「人間とは何か（人間観）をあなたの世界観をふまえて書いてみよう。」というテーマで、レポートを課した。事前アンケートにおいて32%、事後アンケートにおいても36%の生徒しか自分の考えや思いを文章にするのは、「とても好き」「好き」と答えていない（図4）。生徒自身の中に「文章は苦

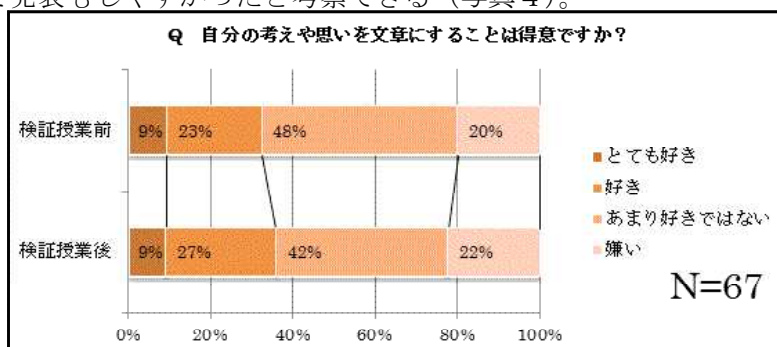


図4 思いや考えを文章化すること

手」という意識があるように思われる。しかし、文章構成などは、まだ未完成な部分もあるが、全員が15分以内で書けており、内容もテーマに沿った「人間観」「世界観」についてもしっかり記述されていた（図5）。

- 人間の心はポジティブとネガティブのバランスのとり方が大事だと思う。ポジティブに前ばかり向いていても自分の改善すべきところを見落としてしまうし、だからといって悪いところばかり見ていると世界を拒絶することに繋がってしまうからだ。ひとたびポジティブとネガティブのバランスを崩してしまうと世界に大きな影響を与える。戦争は他国へのネガティブな感情が元になって起こるし、地球温暖化は人間が文明の進歩を急ぎ過ぎて自分達がしたことを省みる気持ちが足りないからここまで大きな問題になってしまったと思う。だから人間は前に進み続ける原動力になるポジティブな心と自省のためのネガティブな心をバランス良く保ち続けることが大切だと思う。（生徒A）
- 今の世界は、貧富の差があり、日本では災害などで大変な生活をしている人が多い。私は倫理の授業を通し、人は支えながら生きている事、そして思いやりを忘れずに過ごしていく事が本当に大切だと感じた。一人一人が思いやりの気持ちを大事にして行動に移すことで、世界はもっとよくなるだろうと思った。（生徒B）
- 人間とは愛のあるものである。人間は愛で産まれる。愛で育ち、何かを愛していきます。そして愛でまた新しい命がうまれます。人間は愛でできているのです。愛のない世界はありません。世界は愛です。（生徒C）

図5 「人間とは何かをあなたの世界観をふまえて書いてみよう」（倫理レポートより）

「生徒が授業に参加することはどういうことですか。」という問いに、検証授業前に聞いたアンケートにおいては、「みんなひとりひとりが考えること」「しっかり話を聞き、知識を頭に入れること」などの意見が多く、まだ授業に対して受け身で、授業に参加するという意味がわからない生徒が多かったが、参加型学習プログラムを行いに取り入れた趣旨を生徒が理解した検証授業後のアンケートにおいては、「先生の話聞くだけでなく自分の意見を言うこと」「みんなで意見を言い合って、笑顔で楽しく、先生とのコミュニケーションも大事」「興味、関心がわいて、想像力が広がり自分も、みんなも理解しやすい」など授業に参加するということに対して積極的な意見が多くでてきた。つまり、参加型学習を通して授業に参加することで、授業に対して興味関心を持ち続け、自由な発想のもと、自分の考えがより具体的になり、他者の意見も肯定的に聞くことで、授業自体も肯定的に捉えることに繋がるといえる。アンケートでも、授業参加を「とてもしている」「している」と答えた生徒は事前アンケートでも94%いたものの、授業に参加するという意味がわかった中での事後アンケートでは97%へ3ポイント増加した（図6）。

全4回の検証授業において参加

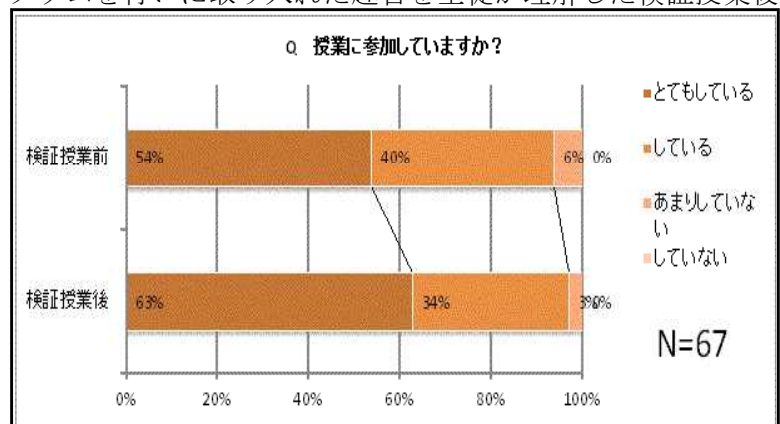


図6 参加する意味を理解した後の生徒の変容

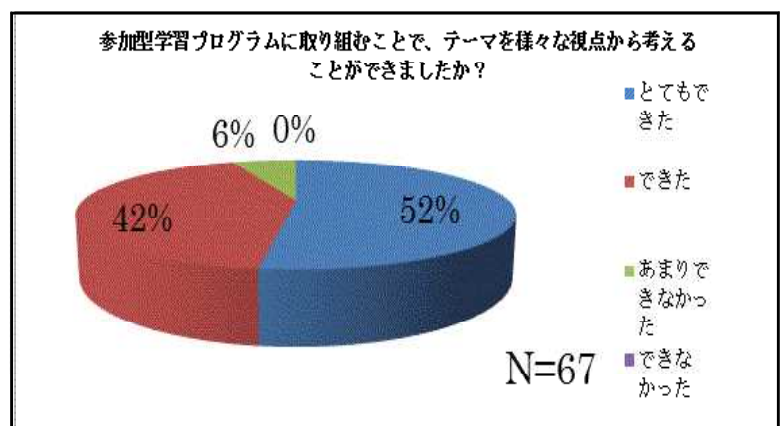


図7 参加型学習プログラム活用後の生徒意識

型学習プログラムを行ったことで、94%の生徒がテーマを様々な視点から考えることが「とてもできた」「できた」と答えた（図7）。参加型学習プログラムを取り入れた言語活動を通して、物事について深く、広く考えることにより、生徒が人間として、自分自身としての在り方生き方を考えることができたといえる。また、集団の中のひとりとして物事を考え、意見を述べ、授業に参加することは、社会に参加することと繋がると考える。感想にもあるように、興味、関心を持って、広く、深く物事について考えることができたのではないかと捉えることができる（図8）。また、今回の検証授業を通して、主体的な学習態度が身についた。今後も、参加型学習プログラムを適切に取り入れ、「自分とは」「人間とは」「世界とは」「現代社会とは」など様々なテーマを主体的に深く考えさせ、人間としての在り方生き方を考えさせる教育活動を展開していくことを継続していく。

- ブレインストーミングでは、ポジティブになれる言葉がたくさんあった。
- 自分の考えや、人の考えがわかり、色々深く考えさせられて楽しかったです。
- ウェビングは深く考えやすかった。新しい視点から見えた。
- 授業に参加することで、今まで考えていなかったことを考えることができた。
- 知識をたくわえる他に、生徒同士、先生達とのコミュニケーションにもつながる。
- わかりやすい例えとか、グループ学習だったからたくさん意見が知れて学べた。
- 皆が違う視点から物事をとらえたけど、クラスが一体化していた。

図8 参加型学習プログラムについての感想

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 参加型学習プログラムの活用が生徒の人間や自己の在り方生き方を深く考えるうえで効果があつた。
- (2) ランキングで個人やグループで話し合い、発表することは、お互いの考えをより理解するうえで有効な手段であつた。
- (3) ウェビングでは発想をふくらませ、グループでまとめて発表することができた。普段、考えることのないテーマを考えるうえで有効な手段であつた。

2 課題

- (1) 現代社会に生きる社会の中の一員として、将来の自分の在り方生き方についての考えを広げることがさらに必要である。
- (2) 参加型学習プログラムを活用するとき時は、授業の時数配分を考える。
- (3) レポートの結果を受けて自分の考えを文章でもきちんと伝えることができるという自信をつけさせる。

〈主な参考文献〉

- 沖縄県 2012 沖縄 21 世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画） 沖縄県
- 文部科学省 2012 『言語活動の充実に関する指導事例集』 文部科学省
- 文部科学省 2010 『高等学校学習指導要領解説 公民編』 教育出版
- 市民学習実践ハンドブック編集委員会 2009 『市民学習実践ハンドブック』 開発教育協会
- 内閣府 2003 『人間力戦略研究会報告書』 人間力戦略研究会
- 西あい・湯本浩之 2003 『開発教育実践ハンドブック』 開発教育協会
- 瀬戸真・加部佐助 1990 『人間の在り方を求める』 ぎょうせい